



## 信仰の山 経ヶ峰

津市の北西部に聳<sup>そび</sup>える標高819mの経ヶ峰は、安濃・芸濃・美里地域からそれぞれ頂上に向かう登山ルートがあり、四季折々の風景を求める多くの登山者に親しまれています。

日本の山の名前は仏教に関わるものが多く、例えば全国各地の薬師岳や観音岳などは仏像に、芸濃地域にある錫杖ヶ岳<sup>しやくじょう</sup>は仏具にその名の由来があります。

経ヶ峰という名は、かつて「安濃嶽<sup>あのうがたけ</sup>」と呼ばれていたこの山の頂に、室町時代、経塚が築かれたことから定着したといわれています。地域の人々にとって経ヶ峰一帯は、古代から聖なる山として意識されていたことが山腹にある平安期の寺社跡などからもうかがわれ、安濃地域からの登山ルート沿いには信仰に関わるさまざまな遺跡を見ることができます。

草生地区からの山出ルート沿いには、高さ2m、幅1.5mほどの自然石に刻まれた枇杷ヶ谷地蔵<sup>びわがが</sup>があり、平安時代に弘法大師がこの地を訪れた時に彫ったと伝えられ、地元の人々の信仰を集めています。

また、菅原道真公を祭る比佐豆知菅原神社<sup>ひさずち</sup>を起点とする平尾ルート沿いには、万病に効くとされる地蔵尊が20体ほど祭られ、病気の治癒の

お礼参りにベンガラを塗ったことから「赤地蔵」と呼ばれています。

さらに登山道沿いではありませんが、両ルートに挟まれた谷あいには八百比丘尼伝説の残る常明寺跡があり、基壇石垣などが残っています。織田信長の伊勢侵攻の際に焼き討ちにあったといわれ、うっそうとした樹木に覆われたこの地が、真言密教の道場であった歴史をひっそりと伝えていきます。

山腹に残るさまざまな信仰の跡を見て、その後頂上からの雄大なパノラマを望むと、いにしえの人々が信仰の山としてあがめた経ヶ峰の存在がより大きく感じられます。紅葉を迎える季節に少し足を伸ばして歴史ハイキングを楽しんでみてはいかがでしょうか。



赤地蔵



経ヶ峰山頂からの大パノラマ

